

第 1 1 回和光市景観審議会

平成 3 0 年 7 月 2 0 日（金） 6 0 2 会議室

第 1 1 回和光市景観審議会			
開催日	平成 30 年 7 月 20 日（金）	開会時間	午後 2 時 00 分
会場	市役所 6 階 602 会議室	閉会時間	午後 3 時 20 分
委員の出欠	出席	欠席	事務局
	戸井原 章 金子 功 阪 秀二 岸 佐登美 上田 信子	榎本 克実	建設部長 小島 孝文 都市整備課長 加山 卓司 都市整備課計画担当 統括主査 三富 応樹 主任 西田 幸太郎 主任 児島 聡 技師補 松本 和恵
			傍聴者 0 名
議案	和光市駅南口駅前広場における景観づくりについて		

発言者	議 事
都市整備課長	お待たせいたしました。ただいまから第 1 1 回和光市景観審議会を開催いたします。和光市景観条例施行規則第 3 6 条第 5 項の規定により委員の半数以上が出席されておりますので、審議会は成立いたしております。 また、現在のところ本日の審議会に傍聴を希望される方がいらっしゃいませんが、審議中に傍聴希望者がいらした場合は入室していただきますので予めご了承下さい。
建設部長	議事に入ります前に、事務局を代表して建設部長より開会の挨拶を申し上げます。建設部長よりお願いいたします。 建設部長の小島でございます。本日は戸井原会長をはじめ、委員の皆様には、お忙しいところ、また暑い中ご出席いただきましてありがとうございます。 この景観審議会は、平成 22 年度から 10 回開催していただきまして、和光市の景観 10 選や景観重要建造物の指定などについてご審議いただきました。 本日は第 1 1 回ということで、平成 28 年の第 9 回の審議会では景観づくりに先導的に取り組む公共施設として提言いただいた和光市駅の南口駅前広場を先導地区として、景観に配慮した施設整備や維持管理を行うための景観形成方針の策定に向け、ご審議をいただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。東京オリ

ピック・パラリンピックでは会場のひとつが朝霞駐屯地になりますが、駅の南口は観客輸送のシャトルバスの発着地点になりますので、そういった観点でも景観形成方針をしっかりと作り、駅前にふさわしいサイン等を作っていきたいと考えております。

また、景観の意識啓発としては、市民活動グループ「和光歴史散歩の会」と共催をさせていただいてる景観まち歩きを今後とも継続的に行って市民の景観意識の向上を図っていきたいと思っております。

景観施策は、まちへの愛着や誇りを育んで和光の魅力づくりにつながる重要な施策だと私どもも捉えておりますので、ぜひご審議いただきたいと思います。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

都市整備課長

ありがとうございました。続きまして、議事に入ります。

戸井原会長、よろしくお願いいたします。

戸井原会長

皆さん、こんにちは。猛暑の中ご苦勞様でした。

それではこれより審議に入ります。本日の議題は、「和光市駅南口駅前広場における景観づくりについて」です。内容について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局

それでは、事前にお配りしました資料に沿いまして説明いたします。資料が不足している等ございましたらお申し出ください。

まず資料の簡単な流れを説明いたします。Ⅰに付きましては、これまでの景観審議会の経緯と成果についての報告の資料となります。

Ⅱにつきましては、和光市駅南口駅前広場における景観の現状を、これまでの景観施策の位置づけと、広場の実際の現況による課題を示したものです。

Ⅲにつきましては、これまでの経緯と課題を踏まえ作成した「和光市駅南口駅前広場における景観形成方針案」の資料となります。本日はこの方針案について議論いただきたいと思います。

Ⅳにつきましては、本日の議論を受けての今後のスケジュールとなりますので、Ⅲまでの説明・質疑後に改めて説明いたします。

また、当日配布しました参考資料は、現況課題と方針作成における補足図面と当議題の概要版の計3枚となります。

それでは、審議内容であるⅢを中心に、概要版に沿って具体的にご説明していきます。

まず、経緯につきまして、平成22年4月から和光市景観計画が施行され、景観重要構造物として、南口駅前広場、北口駅前広場、市道475号線、市道2002号線が指定されており、平成28年の景観審議会では、当面の景観づくりに関する提言として、まちの骨格となる公共施設は、市民との協働により市が積極的に取り組むことが重要との提言を受けております。その中で、南口駅前広場は駅から出

た直後の導線がわかりづらいことや、掲示板や案内板の乱立により煩雑となっている状況もあり、掲示板の煩雑さの解消、だれもがわかりやすい案内板の設置、オープンスペースの創出や、東西導線の明確化による適正な誘導等の課題が多くあります。それらの課題に加え東京オリンピック・パラリンピックの実施による国内外の観光客の増加も想定されます。そのため、南口駅前広場を先導地区として整備・管理の際の景観におけるルールの付与を行うことで景観形成に取り組むことを、景観形成方針案作成の目的としています。

景観づくりの方向性としましては、上位計画である景観計画の内容を受け、「にぎわい・いこい・みどり」に関連するワードをキャッチコピーとして市民参加等により決定することを検討しております。基本方針や配慮事項につきましては、南口駅前広場全体の共通事項とともに、駅前広場を4エリアに分け、各配慮事項を定めております。共通事項としましては、建設予定の東武鉄道の駅ビルがある中での景観形成を意識した配慮事項となっています。4エリアについては、駅と連結したおもてなし空間の駅前エリア、駅前通りへ導くにぎわい空間の西側エリア、バス等の公共交通へ導く東側エリア、緑地エリアとして、各配慮事項を設けてあります。

整備のイメージとしましては、課題となっている掲示板等の煩雑さの解消と、東西導線の適正な誘導のため、駅前エリアに周辺図・配置図・掲示機能を備えた案内板を設置し、駅から出た直後のワンストップとして、駅利用者の足を止め、目的地の誘導を促す整備を検討しています。

説明は以上となります。

戸井原会長

ご説明ありがとうございました。今回の景観審議会については、答申案を出すということではないので、ただいま説明していただいた内容に意見をいただいて、それをまた景観形成方針案に反映させて修正案を作っていただき、次回の景観審議会で諮問というかたちになろうかと思っておりますので、今日はいろいろご質問や忌憚のない意見をぜひお聴かせていただきたいと思います。

金子副会長

駅前広場の駅からの出入口ですが、駅ビルはここから出入りするということはもう決まっているのでしょうか。

事務局

駅ビルに関しまして、今スクリーンに出しているのが東武鉄道がホームページに公表している駅ビルの画像です。茶色系と石の色、灰色、自然色をメインとしており、現状の駅広場の色に調和をしていただいたと思っています。

駅前広場の出入口に関しましては、現状の入口の位置と変わっていません。駅ビル開発の説明会資料に商業施設からの入口というものを予定していると書いてあります。

上田委員

フロアは一階フロアだけになっているのでしょうか。よく中二階があったりします

	よね。そういうのは考えていらっしやらないのでしょうか。
事務局	基本的には駅前広場のレベルと一緒にです。
岸委員	高架にしてもらって、まっすぐ行けたら嬉しいですね。
上田委員	お金の問題もあると思いますが、志木駅みたいな感じにしていいただいたら動線が分かりますよね。そうすると下がロータリーにもなるし、一階あげるだけで使い勝手が全然違うと思います。一階と二階で動線がふたつになるという可能性はほぼなくなっ てしまっているということですよ。
阪委員	和光市駅はホームから降りて半地下みたいになって、改札を出て少し登って一階のレベルになる。利用者としては、わざわざ出たから下がってまた上がってということ になっていますよね。
事務局	駅の構造に関しては東武鉄道のお話になってくるとと思いますが、駅ビルが建っても 今の入口の位置や駅の構造は変わらないようです。ただ先ほど言われました駅ビルが 建つと景観の見方というのは大きく変わってくると思います。
上田委員	例えば、和光市で上のところを作って、そこと駅ビルの二階のところの動線をつな げるようにお願いをすることはできないのでしょうか。それが実現するかは別として、 お金の問題はあると思いますが、南口を基本的にリフォームで考えるのか、一から利 便性を考えて設計するのかによって出来上がりが違うと思います。せっかく駅前が変 わるチャンスにリフォームのような付け焼刃なかたちでやってしまっは無駄になっ てしまうかもしれないので、この機会にお金がかかってもしっかりと考えてやったほう がいいと思います。
	駅前変わったね、カッコよくなったねとか、ブランドイメージを上げたほうがいい のではないのでしょうか。
事務局	今回の景観審議会でお話した上で、費用的な問題もありますが、実際に何ができる かを考えていきたいと思っています。
上田委員	市民の皆さんも駅前が変わるという期待値がある分、もったいないと思います。こ の問題点のところを見てもすごくわかってらっしゃるのに道路がこのまま斜めだとシ ンボルツリーの場所は結局シンボルツリーのままで、そこに行くことさえもできない。 植物に水あげをするのも、すごく大変な思いをして水あげをしているんですよ。
	素人の考えとして、できれば駅前を上にあげていただいて、下をロータリーにすれ ば歩く人と車が離れて安全で、広場を倍使えるから非常時にも役に立つと思いますし、 最終駅でもあるので、その役割を果たすためにお金を工面してでもやったほうがいい と思います。皆さんの意見が反映されて、ずっと続くかもしれない景観になると思う ので、それを付け焼刃で2020年に向けてだからと言って安易にやってしまっは すごくもったいないです。2020年が過ぎても予算が足りなかったら五年、十年と 先延ばしにしてでも、少しずつやっていったほうがいいと思います。

戸井原会長

ただいまのご意見は住民感情として当然のことだと思います。お金が高いとかではなく、すぐに実現はできないけれど、しっかりとしたビジョンとして、遠い将来はこういう完成形を目指し、現実論としてできるものから少しずつやっていく、その間には暫定的なものがあってもいいと思います。

例えば、浦和駅での解決策のひとつとして、半地下になるのですが、短い距離でもエスカレーターが設置されています。そうすると利用者の人は楽になるし、建物や線路を上げるよりも費用の面でもはるかに安い。線路を上げるのは費用が高いと言われても、なぜできないのかと思うは当然の疑問ですので、説明責任として市に言っただければいいと思います。他の事例を探していただくとわかるのですが、駅と駅の周辺の鉄道を上げるだけで数百億円かかります。市の何年か分の予算を全部つぎこむくらいの費用になってしまうとすれば、現実的なものに絞っていただいて、短期的にすぐできるものと、中期的なものと、遠い将来というようなかたちにわけて、市の景観の姿勢として、将来のビジョンを示していただくということもお願いできると思います。

景観で注意しなければいけないのは、法律上、景観法の中で景観とは何か、どうすることがいいのかという定義がありません。景観は市民の人たちがどうしたいというすごく主観的なものなんです。唯一客観的な指標として出されているものが色彩です。だからつついコンサルタントなどが数値だと客観的に示せるので色調ばかりにいつてしまうのですが、意匠や形態、すべてが景観を形成するものなので、いろいろ配慮していただいていいと思います。

また、駅を全部上げれば全て解決というよりは、他の駅でもありますけども、ペDESTリアンデッキのようなデッキを足していただくのが安くできていいと思います。

上田委員

私がイメージしていたのは電車を上げるのではなく、真ん中を広場にして、周りは何メートルか上げるというものです。何かイベントをしたときには上からも横からも見られ、屋根にもなるので使い勝手もいいと思った次第です。

戸井原会長

具体的な理想の絵を出してしまうと、市民の方にすぐできるのではないかとわかれてしまうので、言葉でもいいので、これが終りではないということを市が示すといいと思います。

上田委員

せっかく屋根をつけるのであれば、そこを歩けるようにして、ベンチとかがあったら、ちょっと高い位置でゆっくりできるスペースが増えると思います。人が多くなると治安が悪くなると思うので、上からおじいちゃんやおばあちゃんが散歩中に上から見てたりすると悪いことができないとか、市民の目が止まるようになると防犯的にもいいのではないかとあって、視線を上げるっていう意味でも。

戸井原会長

色彩だけではなく、そういう実用的な駅の使用方法についても、オリンピックまでに間に合わせなくても、市の目指す方針として何か考えていただければというご意見

上田委員
戸井原会長
阪委員

ということでよろしいでしょうか。

はい。

他にございませんでしょうか。

なかなかこう言ってすぐできるものではないですね。

説明の中でもおっしゃっていましたが、どこを向いていいのかわからないというのは、よそから来た方の第一印象だと思います。具体的にどうすればいいというのはないのですが、目線を向けるという何らかの工夫が必要だと思います。

戸井原会長

今お話のあったどこを向いていいのかわからないというのは、非常に大事なことだと思います。

市民の方であれば、どこに何があってというのが無意識にわかっていて、目印になって方向がわかります。車を運転するときに進行方向に向かって地図を案内するナビと東西南北で地図が出るナビがあると思いますが、北に行くと上ですけど、南側に向かって走るときは混乱しますよね。駅の地図も誰に見せるかによって、必ずしも本当の北を上を表す必要はないので、見た人が見やすく、道を間違わないのが大事だと思います。

オリンピックを目指すのはひとつにあると思いますが、オリンピックに来るお客さんへのおもてなしと、終わった以降も市民の方々が使われるのにいいかたちとが必ずしも一致しませんよね。市民の方々のためにつくる景観というのは長期で考えて、オリンピックなら二年の間で仮設的にでも整備をして、その撤去した跡地を市民の方々とよくもみながら決めていく方法もあると思います。

電車で来られるオリンピックを観戦する方々には和光市はオリンピックの会場の最寄りの駅という印象しかないと思いますが、まず長時間電車に乗って来られて最初に何を利用するかというとトイレになると思いますので、特に女性のブースについてはパーキングエリア等でも長蛇の列になっているので、必要性でいえば仮設トイレを綺麗な感じで整備する。それを撤去した後は憩いの場などに使えるように考えていくのような方法がいいのではないのでしょうか。

阪委員

和光市の駅前は広いですね。うまく工夫すれば、市民の方にも使いやすい駅になると思います。和光市駅そのものの管理を行っているのは東武鉄道でしょうか、東京メトロでしょうか。

都市整備課長
阪委員

東武鉄道です。

そう考えると駅前に関しては、うまく東武鉄道を巻き込んでいかないと難しいですね。駅ビルの件も含めて東武鉄道あつての和光市駅だと思いますので。私はホンダの人間ですが、和光本社に来ると決まった時に、先ほどおっしゃっていましたが、自分も和光市駅に最初降りてどこに行っていいいのかわからなかったんです。どうしてもイトーヨーカ堂の方向にビルとビルの間に道が抜けてるのが見えて、最初その方向に

行ってしまいました。費用のこともあります、オリンピックの話もありましたし、そういうのを考えると目線をうまく誘導する方法があったほうがいいですね。

戸井原会長

オリンピックまで費用も時間もないので、将来はこうするというものをしっかり持っていた中で、暫定的にでもできあがるものを考えていただきたいということですよね。

阪委員

猿などの動物の絵が書いた目線に向ける工事現場の柵みたいなものがあると思いますが、ああいうものだったら安くできそうですね。とりあえず安全性は置いておいて、目線の向け方はいろいろありそうですね。

岸委員

駐車場だった駅前の西側はどのようになるかはもう決まっているのでしょうか。

事務局

駅ビルの西側は立体駐車場ができます。

上田委員

駅ビルの立体駐車場ができると駅前通りが渋滞になりそうですね。

戸井原会長

車の交通の流れについては、現在ある道路の中で幅員構成などを変えて、いろいろ緩和したりすることもできますし、それは景観とは別に考えるんですよね。

建設部長

駅の西側の車が通れるアンダーパス（市道 475 号線）を北から南に向かって坂を上がった左側に立体駐車場の出入口ができる予定ですが、駅ビル建設をする東武鉄道も警察協議をして実害がないかなどの相談をしています。

戸井原会長

一般的に建物、出入口というものができる場合には、道路管理者と警察交通管理者それぞれが渋滞、危険性などを見て、道路を安全に、円滑に保てるようにいろいろ指導していくのが通例ですね。市としては道路の設えとしてどうしていくかを考え、警察としては交通の規制の仕方をどうするかで考えていきますので、そういう意味では今よりそう悪くはないと考えていただければと思います。住民の方々の感情としては、景観も交通も切り離して考えられないですよね。

上田委員

いろいろと一緒に考えればもっと綺麗になる可能性があるのに、時期も違う、お金も違うということで別々に考えてしまうことが多いですね。時期的にもやらなくてはいけない状況にあるのであれば、いろいろと踏まえ、横のつながりも考えてやったほうがいいものができるのではないかと思います。今の現状を見ていてもバラバラな気がしていて、それで出来上がってもバラバラなものができるのではないかと素人ながらに思えます。

戸井原会長

そういう意味では道路の機能などに関しては都市計画審議会というものがございす。審議されるのは我々と同じように委員の方がするのですが、そうした中で我々は景観という立場から景観の統一性ということでご協力いただければと思います。

確かにお気持ちはよくわかるのですが、お隣の家物干しがすごく邪魔だからテラスに出せばいいのにとってもそれは難しい、誰のものかというのが一番強い問題なんです。線路と駅ビルを建てようとしている敷地は東武鉄道の敷地なので、お話を理解をしていただくのはいいのですが、駅ビルと駅前広場を一緒にするという

のは、相手もその費用を出さなければいけないですし、それは市としても確実にやりますというのは言い切れないと思います。ただ皆さんの素直なそういった気持ちをお持ちだということは市の方にも認識していただければと思います。

阪委員

つつい理想の話ばかりしてしまいますよね。

駅前広場は市の持ち物でしょうか、東武鉄道でしょうか。

事務局

駅前広場は市の持ち物です。

阪委員

駅が東武鉄道で、駅前広場やロータリーなどが市の持ち物であれば、市としても多少は意見を述べることができそうですね。

岸委員

私は案内板のこの色、わこうっちの緑は良いと思います。これはもうすでにあるのでしょうか。

事務局

これは整備イメージです。

岸委員

この色は好きです。良いと思います。

私は市民なので、案内板を見なくてもわかるので見にくいというのが全然わかっていないのですが、見にくいのでしょうか。

阪委員

他所から来た人間からするとわかりにくいです。どこを見ていいのかわからない。

上田委員

待ち合わせをどこにするかで迷いますよね。最近わこうっちができたので目印になりますが、知らない方に説明するときにわかりにくいです。もっとわこうっちを大きくしていただいてもいいと思います。

事務局

そういう意味でも駅を出てすぐの場所は、まずストップしていただくエリアにしたいと思っています。

上田委員

せっかく駅前が広くできているのなら、災害が起きた時にも逃げられる場所として、そういう場所を確保されてるほうがいいと思います。

事務局

にぎわい空間というかたちで空間の確保というのがあるのですが、この空間というのは災害時にも集まれる空間にもなれる多様性がありますので、空間をつくるというのはいろいろなものにも対応ができると考えています。

上田委員

シンボルツリーの緑化空間のところとは、このまま離れている感じになるのでしょうか。

事務局

ロータリーにバスが入ってきて、バスが出ていくというかたちである以上は、今の交通形態をすぐに変えるというのは難しいと思います。

この緑化空間は道路からも駅前からも見られるような位置ですので、緑を配置したいと考えています。

上田委員

駅前に大きな島があるのに、そのままにしているのはもったいない気がしますね。

事務局

隣の成増駅にも島がありますが、横断歩道で渡れますよね。

上田委員

逆にそちらをイベント空間みたいにしてしまってもいいのではないのでしょうか。

岸委員

島だと人が集まりすぎたりするとイベントができないかもしれないですね。

上田委員

2020年に向けては多言語の表示というのはすごく必要ですよ。

事務局

何か国語にするのでしょうか。

阪委員

日本語、英語、中国語、韓国語の四か国語を予定しています。

戸井原会長

今は電車でも、バスでも多言語表示になっていますよね。

意見を絞っていきたいと思います。10月頃に市民との意見交換というものを予定しているようですが、景観審議会としては特にどういう課題、どんなことを市民と意見交換をしてほしいのか何か意見はございますでしょうか。

岸委員

市民は今みたいに理想を語ると思います。

上田委員

今日のためにひとつ考えてきたことがあります。2020年のオリンピックに向けて、駅から樹林公園に向かって42.195kmを測って、マラソンコースを作れば人もたくさん走りに来て、治安もよくなるし、記念にもなると思います。お金もあまりかからずにイベントにもなり、ゆくゆくは本当のマラソンをそこでしてもらえるかもしれない。和光市駅がスタートとゴールで、コースを行くと42.195kmができるというものを考えてきました。

事務局

景観の計画でも駅から樹林公園方面への道路というのは景観重要公共施設に位置付けられています。

上田委員

駅から駅前通りに行くのもわかりづらいので、歩く人の動線もうまく結べればいいと思いますし、夜中でも安全に走れるようになればさらにいいと思います。休日に市民ではない人が和光に走りにきてもらえるかもしれないですし、イベントにもできると思います。

戸井原会長

上田委員からの意見をまとめさせていただきますと、オリンピックが終わっても、今おっしゃられたようなかたちで永続的に残る景観の検討もしてほしいということなので、市民の方に提案するときには、住んでる人のための景観づくりと、おもてなしとしてオリンピックのときだけの景観づくり、両方議論していただこうがいいという考えでよろしいでしょうか。

今日、実は駅から電車を降りて和光市役所に歩いて向かったのですが、あまりの暑さに途中からタクシーを使いました。オリンピックはちょうどこの暑い時期です。暑い時期なので暖色ではなく、涼しげに青いマットにしたり、ミストを出したり、オリンピックのときだけのおもてなしと市民のための継続的な景観を別に考えたほうがいいと思います。

あとひとつ残念なのが、前回の景観審議会では我々が事務局から報告を受けたニホニウムについて、元素のプレートを駅前で探したのですが、すぐには探せませんでした。地元の人にはわかるけれども、せっかくのおもてなしのときにこの元素が和光市で発見されたというのをわかりやすく教えてあげるのもひとつだと思います。

上田委員

賢い感じがしますよね。和光には緑があり、自然も体験できる上にニホニウムや理

	化学研究所もあって賢い感じもする、洗練されたまちという印象が与えられたらすごくいいと思います。
岸委員	ミストいいですね。ミストで進む方向を案内してくれたら、気分もいいと思います。
阪委員	冬だったら暖かいミストにすればいいんじゃないでしょうか。
戸井原会長	理化学研究所まで案内する必要はないですが、ニホニウムが和光で発見されたというのを駅で知らせるというのにはありではないでしょうか。
阪委員	和光の財産ですね。
上田委員	すごくそう思います。
岸委員	2020年は和光市駅のロータリーからシャトルバスというので朝霞の会場まで行くのでしょうか。
建設部長	シャトルバス発着の駅は和光市駅、朝霞駅、光が丘駅になっています。
岸委員	どこに止まるかは決まっているのでしょうか。
建設部長	どこが乗場になるのかはまだ決まってないのですが、南口で現在検討しています。
上田委員	和光ですごい乗り降りしそうですね。
岸委員	空港に行くのに線路側にあるバスをよく使いますが、その位置がちょっとわかりにくいので、わかるようになればいいですね。
	そこからシャトルバスが出る可能性もあるのでしょうか。
戸井原会長	シャトルバスのときは実際に乗降需要が何人あるのかをよく予想をしていただき、そのバス待ちの人たちのスペースも必要になると思いますので、これからいろいろ作っていく上で、オリンピックの時期が終ってからにするなど、時期の問題も出てくると思います。
岸委員	もうちょっと看板を青にするなど、寒い色にしたほうがいいのでしょうか。
戸井原会長	暑い中、バスを待たせるのを考えると、シェルターなどを青系にするなど、オリンピックのときだけ色を変えるというその考え方はありだと思います。
	炎天下で待たせるのはとんでもないおもてなしですね。
岸委員	日傘を貸してあげるのはどうでしょうか。
戸井原会長	そろそろ収束させていただきたいと思います。いろいろ意見をいただいた中で、特に駅の設えと駅前広場をもっと機能的に使える道を閉ざさないでほしいということで、費用のことなどもあるのですべてとは言わないけれども、将来の景観に反映していくというようなコメントを景観形成方針の中で考えてもらえないかというのがひとつですね。それからもうひとつは、市民との意見交換の際に、永続的な市民のための景観とオリンピックのおもてなしのための景観というのを分けて議論してもらいたいということですね。今回はこのようなまとめでよろしいでしょうか。
阪委員	なかなかすぐに手が付けられるというものがないですからね。絞った方が私もいい

と思います。

戸井原会長

簡単なふたつの言葉ですけども事務局には大変な言葉です。

阪委員

ニホニウムは和光の貴重な財産ですから、うまく活用できたらいいですね。

戸井原会長

それではこの景観形成方針案の審議につきましては一度この辺で切らしていただいて、次に今後の予定についてを事務局にお願いしたいと思います。

事務局

今後の予定について、先ほどお渡した資料にありますように、まだどういのかたちで開催するかは決まっていないのですが、10月くらいに市民との意見交換を予定しております。市民の方の意見と今回審議会でいただいた意見を元に景観形成方針案を修正して、来年1月くらいの景観審議会で案として諮問させていただきたいと思います。

戸井原会長

ありがとうございました。それでは次回の景観審議会は1月頃が目安になるということですね。そのときの議題としては、今回の景観形成方針が修正案として出てきますので、諮問、答申というかたちになると思います。次回審議会のスケジュールの報告まで事務局の皆さんありがとうございました。以上を持ちまして、本日の議事は終了いたします、委員の皆さん、事務局の皆さん、長時間にわたりご苦労様でした。